令和４年度　第３回　部活動の地域移行のあり方検討委員会　議事要旨

令和５年３月３日（金）15:00
神戸市総合教育センター 701 号室

１．事務局説明

（１）実態調査アンケート結果に関する報告
　　・内容構成、回答率（暫定値)、回答結果（中学生、保護者、管理職、教員）
（２）団体へのアンケート調査について
（３）令和５年度における休日部活動の段階的な地域移行を見据えた取組について

２．各委員による意見等（まとめ）

（１）アンケート結果について
①全体
（委員）アンケートの回答率が高い。
（委員）神戸市は市域が広く、地域ごとの状況を把握する必要がある。今後、子どもが多い少ないなど地域性で、具体的施策を変える必要がある。神戸市として、全体の枠組みを決めなければならない。
→（事務局）今は移行期であり、できるところから地域移行を始めることにはなるが、基本は休日を切り離していく方向になる。

②中学生
（委員）中学生自身、休日に活動しなくてもいいという意見が多い。保護者もそういった意見が多いように見受けられる。中学生は大会に勝ちたいというより、部活動の場が居場所となっているようだ。平日は部活動、休日はスポーツクラブという、全く概念が違うものを一緒にするのは難しいと感じる。全国大会等がなくなれば、休日活動の意義がなくなってくるかもしれない。
（委員）トップを目指すような子以外は、そこまで部活動への期待をしてはいないのではないか。

③中学生保護者
（委員）専門性を期待している保護者が多い。ただ、専門性の言葉の定義は何なのか、どう捉えているのか分からない（技量や資格のことを指しているのか)。生徒や保護者も「専門性」への期待と同時に、厳しい目を持っているように思う。地スポではボランティアが多く有資格者が少ない。
（委員）経済的負担は 1,000 円以内が多い。実際、地域移行のイメージができていないのかと思う。
（委員）部活動では練習試合の交通費が毎回かかる（一人 1,000 円くらい)。当然、大会が続けば負担が増える。費用は種目によって異なる。(ユニホームや道具など)
(委員)吹奏楽部は楽器の運搬・維持費用がかかるし、意外に高い。
（委員）指導者によって報酬も大きく異なる。地域移行にあたって、予算はついているのか？
→（事務局）予算の大きな増額はない。
（委員）費用については、総合型地域スポーツクラブも、多いところで月 1,000 円程度くらい。
（委員）文化センターが定例講座を行っているが、週１回１時間で１回あたり 1,500 円程度である。

④教員

（委員）管理職と顧問との意識に差がある。休日休みたい人が多いが、そうでない人もいる。

（委員）地域移行については、土日はしなくていいという捉え方をしている先生も多い。先生は、昔のイメージもあり、ギャップが大きい。意識の切り替えが必要。

（委員）移行後も携わりたいという先生で、どういう種目があるのか把握しておいた方がよい。たとえば、自身の学校なのか住んでいる地域なのか。

（委員）自分が教えたい部活動とは異なる部の顧問となることは、学校ではよくあること。

（委員）先生の異動により、関係の継続性がなくなってしまうおそれがある。

（委員）文化部は、土・日はやりたい人だけが専門性のある講師の元で活動する、そういった棲み分けができればよいが、適した指導者がいるかどうかも課題である。

（２）団体へのアンケートについて

（委員）地スポも同じ、意欲のある指導者が多い。アンケートで意向を確認するとして、実際は、地域ごとに学校とそこにあるスポーツクラブ等で協議を行うほうがよいのではないか。

（委員）個人競技と集団競技で考え方が異なる。個人は学校に部活がなくても大会に出ることが多いが団体競技は出られない場合もある。すべての競技ではなく、できる競技から進めるという方がよい。

（委員）団体へアンケートをする場合は、具体的に何をしたらよいかの説明が必要になる。

（委員）地域性や種目などで、どういう特性があるかをグルーピングしてはどうか。

（委員）休日のクラブ活動は学校単位なのか拠点校方式なのか、それにより意識が大きく変わる。そのあたりの線引きが分からない。神戸市の中でマップのようなものができるイメージか。

→（事務局）中学生・保護者のニーズがどこにあるのかを把握して行う。

（委員）スポーツ協会の加盟団体は、大会運営等を行っているということもあり、指導者の集まりのようなもの。アンケートでどう聞くのがよいか、なかなか難しい。

（委員）それは吹奏楽連盟も同じで、大会運営等しかやっていない。

（委員）文化振興財団としては、事務局が各教室を行う先生方の意見をまとめる形になる。

（委員）種目の愛好者を増やすために競技団体として何ができますか？というような聞き方も有効。

（委員）平日に部活動に参加し、休日は別のところで活動する場合、モチベーションが保てるか。

→（事務局）平日と休日の活動でどちらがイニシアチブをとるのか。これは、現場からも出ている意見。学校部活動という意識を切り離していく必要がある。

（３）令和５年度における休日部活動の段階的な地域移行を見据えた取組

（委員）複数の期間にまたがって調整に動く、部活動コーディネーターのような調整役は必要。

（委員）現在の部活動指導員にも、アンケートを取る必要がある。